NEWS LETTER

CONTENTS

特集　＊ベル・リンギング
東京・日南市・ポーツマス市
初紙上セミナー
＊小村寿太郎侯と高平小五郎
講師：平野　恵一
News ＊小村寿太郎侯生家が宿泊施設へ

2020年
秋季号
VOL.11

ベル・リンギングについて思うこと

去る9月5日（土）午後3時47分、ベル・リンギングのベルの音が小村侯の眠る青山霊園墓地で初めて鳴り響きました。小村寿太郎侯東京奉賛会による念願のベル・リンギングが実現したのです。

当会では、小村侯の遺徳を顕彰するとともに偉業を後世に伝承するため、ベル・リンギング運動を今年度新規事業として掲げ、準備を進めて参りました。これに拍車がかかったのは、3月11日のテレビニュースでした。仙台市の商店街で道行く人々が、東日本大震災発災の午後2時46分になるとその足を止め、一斉に手を合わせて黙祷を始めたのです。感動しました。

一方、私達は私立の日南学園で既にベル・リンギングが行われていることを承知していましたが、そのこと自体は大変結構なことと思いつつも、何か腑に落ちないものがありました。というのは、1905年9月5日に日露平和条約が締結されたポーツマス市において、その日を記念して休日と定め、ベル・リンギングが開始されたのに対して、その姉妹都市である日南市においては、市長が日南学園の式典に参列すること以外には何もなされていないからです。であれば先ず、当会が郷里日南市から遠く離れた東京の地で率先して始めれば、何らかの刺激になるのではないか、という期待も込めて取り掛かったわけです。

因みに、彼の地ではポーツマス市のベル・リンギングが、ニューハンプシャー州にまで広がっています。平和条約が締結された「地」であり、適地として選ばれたことを名誉としてベル・リンギング運動を展開しているP市やN州に比して、当方は首席全権大使という、ハードネゴシエーターたる主役の「人」を輩出していることをもっともっと誇りにしていいと思うのです。

ところで、ベルそのものについては、既製品を物色しているうちに、会員から素晴らしい提案がありました。「市販の金属製のベルを購入するのは簡単ですが、オリジナルの手作りの物、それを日南市の人が作成できないか。」というものでした。
毎年、干支の土鈴を手掛けている日南市の障害福祉施設「つよし学園」が試作を重ねて、「ポーツマス条約締結115周年記念」という銘入りのベルを完成し、それは陶器ながらとても明るい、澄んだ音色に仕上がりました。感謝しています。

本来であれば、このベル・リンギングセレモニーには在京宮崎県人会会長をはじめ御来賓の方々をご招待すべきところ、今年の新型コロナの感染状況下ではそれも叶わず、当会が隔月に行なっている墓地清掃・参拝の常連に絞って細やかに執り行いましたが、来年こそはコロナ感染が終息し、盛大に催行できるよう祈念して止みません。

結びに、今後の展開として、平和を願うベル・リンギング運動の輪が、母校日南高校の生徒さん、日南市民の皆様、宮崎県民の皆様へと拡大して行くことを切望致します。

小村寿太郎侯東京奉賛会 会長　　下 苙 直 樹

発行：小村寿太郎侯東京奉賛会　発行日：2020年11月30日　発行責任者：広報担当　御手洗 章子

青山霊園で奏でたベルの音は
清く、高く、澄み渡りました

小村寿太郎侯東京奉賛会 副会長　郡司 聡視

そのベルは市販の物では無く、日南在住の人達によるハンドメイド。

製作して頂いたのは日南市の風田にある障害者福祉施設「つよし学園」で、ご存知の方も多いと思いますが、宮崎県初の民間福祉団体です。

日南市で行なわれいるベル・リンギングは開催地、参加者が共に限定的で多くの市民の参加には未だ至っておりません。ですが現地日南市の事は、現地の方々が決める事ですので、その活動の発展を遠く東京から見守るしか有りませんでした。今回、コロナ禍の中でもささやかに集まり、小村侯の眠る青山の、墓地の前でベル・リンギングを開催すると決まり、その次第を検討する途中で、主役となるベルを日南の方に手作りしてもらえないかと思うに至りました。幹事の皆さんに思いを伝えましたら、殆どの方から賛同を頂きました。問題は発注先です。毎年年末に、つよし学園が翌年の干支の置物を製作している事を地元紙で知っていた為、同施設にベル作製依頼を思いつきましたが、果たして発注を受けられるのか確証はありませんでした。そこへ幹事の一人の井上榮子さんより、つよし学園の代表者とは交流がある事と実際に干支の置物も頂いた事があるとの繋がりをお教え頂き、井上さんを通してベル作製を正式に依頼する運びとなりました。10 個発注したベルは事務局に無事に破損無く届きました。合計 12 個入っていて、伺うと 2 個はサービスで、もしも割れた場合もご考慮頂いておりました。ベルには手書きで「ポーツマス条約締結 115 周年記念」と書かれております。金属では無い為、その音が気になる所ですが、思うよりも高く、澄んだ響きでした。

製作にあたられた「つよし学園」の皆様には御礼申し上げます

出来る事ならば、次回以降もつよし学園にお願いしてお作り頂き、その事を日南在住の方にも知って頂き、ベル・リンギングが広がる事を期待したいと願っております。

『ポーツマスの友好の鐘とベル・リンギング』

学校法人 日南学園に於いて

友好の鐘

2014 年 9 月 5 日より、日南学園（藤原昭悟校長）では、中高の生徒約 200 名が参加して行われています。

7年目の今年は、コロナ渦の影響も有り中庭で小規模で行う予定でしたが、当日が台風でしたので日南学園のポーツマスホールと名付けられた音楽ホールにて行われました。

15時47分に、崎田恭平日南市長が2011年10月5日にポーツマス市より贈られた「友好の鐘」を鳴らし始め、続いて日南学園の生徒さんが鳴らします。

気高く崇高な音色が、日南の空から海を渡り、空へと響き、13 時間の時差の越え、遠くポーツマス市へ届いているかと思わせるようです。また、日南学園では、毎年ポーツマス市との間で国際交流と語学研修が行われており、1905 年に小村寿太郎侯が結んでくださった『友好の絆』は、今もなお日南学園の生徒さんへ受け継がれています。

【2021 年　活動予定】

5 月 総会・懇親会
7 月 基本セミナー
9 月 5 日　ベル・リンギング
9 月　親睦ツアー
11 月 26 日 墓前祭
小村寿太郎侯東京奉賛会特別講演
（講師：中西 輝政）日程調整中

＊青山墓地清掃・参拝日程＊
12 時いとうや(TEL:03-3401-2475)集合
3 月 28 日（日）
5 月 30 日（日）
7 月 25 日（日）
9 月 26 日（日）
11 月 26 日（金）

アメリカ合衆国ポーツマス市に於ける BELL RINGING について

小村寿太郎侯東京奉賛会 幹事 松下定信

ポーツマス市における BELL RINGING についてポーツマス市の PUBLIC INFORMATION OFFICE, STEPHANIE SEACORD 氏に協力を仰ぎ下記取り纏めてみました。

MR.STEPHANIE は、ポーツマス市に於けるポーツマス平和条約の FORUM およびニューハンプシャー州におけるアメリカと日本に関する総責任者です。

日南学園に於いては毎年ポーツマス平和条約を祝福して来ている事、また今年 9 月に日南市長が日南学園を訪問し BELL RINGING 祭に参加される予定で有った事も御存知でした。(日南学園には現在ポーツマス市より MR.KEY BARLOW が英語教師として派遣されているとの事です。)

ニューハンプシャー州ポーツマス市では 2010 年に 9 月 5 日をポーツマス平和条約締結が極めて重要で有る事、かつ平和会議の成功を確固たるものにする為の法律を制定しております。

毎年ニューハンプシャー州知事は宣言書を発行し、全ての市民はニューハンプシャー州の歴史の重要な一部として相応しい祝福をする活動を行っています。

1905 年 9 月 5 日、115 年前からポーツマス市は町中にベルの音を奏でてこの歴史的平和条約締結を祝福して来ております。

2020 年 9 月 5 日土曜日、ポーツマス平和条約の日を祝福し、ニューハンプシャー州市民による行事が午後 3 時 30 分に市場広場にて執り行われました。

2020 年、州知事の声明文はニューハンプシャー上院議員 HASSAN, SHAHEEN 及び Ann Mclane Kustger,偉大なるニューハンプシャー州知事祖父(JohnMcLan,1905 年平和会議を主催)からの手紙に沿って朗読されたとの事です。

午後 3 時 47 分、1905 年ポーツマス海軍造船所にて平和条約締結の時間と同時に祝砲が鳴らされ、その合図に合わせてポーツマスのベルも鳴り響いたようです。

今年は市民の皆様はこの式典を SOCIAL DISTANCE を保ち、マスクをして歓迎した事も伝えられております。

ポーツマス平和条約 FORUM は 1994 にポーツマス平和条約の精神を外交のテーマとして研究するために創設され、ポーツマス平和条約記念日には毎年、9 月 5 日 15 時 47 分にこの条約締結を祝し、15 時 47 分から 15 時 52 分、5 分間祝福のベルを奏でるそうです。

この BELL RINGING 祭には一般市民を含み下記教会、博物館が参加している。

1. MIDDLE STREET BAPTIST CHURCH,PORTSMOUTH
2. ST.JOHN'S EPICOPAL CHURCH,PORTSMOUTH
3. UNITARIAN UNIVERSALIST(SOUTH)CHURCH,PORTSMOUTH
4. FIRST UJNITED METHODIST CHURCH,PORTSMOUTH
5. TEMPLE ISRAEL,PORTSMOUTH(DISPLAYING A PEACE FLAG)
6. WENTWORTH BY THE SEA HOTEL, NEW CASTLE(WHERE THE RUSSIAN AND JAPANESE DIPLOMATS STAYED)
7. PORTSMOUTH HISTORICAL SOCIETY JOHN PAUL JONES HOUSE (PORTSMOUTH PEACE TREADY EXHIBIT)

8.STRAWBERY BANKE MUSEUM

小村寿太郎侯と高平小五郎

～お二人の信頼関係と政治・外交生命を救った明治天皇のお言葉・勅語～

講師 小村寿太郎侯東京奉賛会 顧問 平野 恵一

はじめに

この度、コロナ対策のため書面による令和２年度総会決議で承認され、顧問となった平野恵一です。ご案内の通り、年齢だけは不足ないのですが全くの不束な者です。今まで同様よろしくお願いします。特に文化果つる所といわれる東北は岩手の産で、宮崎は勿論九州さえ全く縁のない私です。その私が2005年8月、ポーツマス講和条約締結100周年記念式典が9月5日を中心にポーツマス市で開催されることとなり、姉妹都市である日南市から友好使節団が派遣されることを新聞で知って応募したところ、参加を認められ、出発当日成田空港ロビーでご一行と初めてお会いしましたのがご縁の始まりです。この時の団長が故谷口義幸当時の日南市長でした。ご一行の中には当時副会頭であった日南市商工会議所清水満男前会頭も若手の経済界代表格で、何かとお世話になりました。ご一行約20名はほとんどが日南と縁のある方々で私と愚妻のみが例外でした。

しかし、谷口団長はじめ皆さんは私たちを一切差別・よそ者扱いせず、ポーツマス市長主催の式典（令和2年から小村侯墓前で行われている条約を祝し、同時刻に本会主催で挙行されるベル・リンギングイベント等）やパーティーを始め、在米加藤良三大使夫妻も出席したニューハンプシャー州知事主催のディナーパーティー（会場は両国全権団も滞在した Went worth By The SeaHotel(ウェントワース バイ ザ シー ホテル）にも参加させて頂くなど、全く同じ行動を許されました。

このような体験から、小村寿太郎侯の郷里・おくにの方々はなんと心の広い、よそ者に優しい人なのか、やはり日本を代表する偉人・大外交官・外政家を輩出した地域はひと味もふた味も違うと、敬慕の念を日南の方々に抱くようになり、すっかり日南・小村侯の虜になりました。

このような気持ちを抱くようになっていましたところ、前市長となった谷口さんから本会・小村寿太郎侯東京奉賛会の当時の川村蒼市会長、金丸博司事務局長、郡司聡視副会長を紹介され、総会で拙い話をすることとなりました。このことがきっかけとなって本会に入会し、下芷直樹会長を始め皆さまのご指導を得て今日に至っている私ですが、今日まで唯の一度もよそ者・他人扱いされることなく、本会関係会合に参加する毎に、参加して良かったと、いつも満足感をもって家路に着いています。

そして、このことを実感する度に、郷里岩手の大先人、高平小五郎が戊辰戦争・秋田戦争で最年少藩士として官軍と戦い、負傷し、敗北し、賊軍との汚名を浴び、背負いながらも、小村寿太郎外務大臣の下で、地域的な差別やハンディキャップを受けることなく、国家と国民の為に持てる力を存分に発揮し得たのだと、考えるのでした。

事実、高平は外交官として最高位・在米特命全権公使、小村外相と共に日露講和会議全権委員、在米特命全権大使、伏見の宮訪欧の随員を装い、日韓併合条約にたいする対米工作を命じられるなど、外交史にその名を残す功績は常に小村外務大臣の時です。因みに日本が今日のように各国と大使を交換するようになるのは日露戦争後です。従ってそれまでは各国に駐在する日本外交官の最高位は特命全権公使でした。

小村寿太郎侯と高平小五郎の友情と信頼

小村寿太郎と高平小五郎は共に東京大学の前身・大学南校の同期です。小村侯は飫肥藩、高平は一関・田村藩からそれぞれ藩校を経て貢進生として、大学に進みます。

卒業後、小村侯は文部省第１回留学生としてハーバード大学へ。一方、高平は工部省を経て外務省に入ります。小村侯は帰国後司法省から外務省へ移りますが、主として本省勤務が多く、海外勤務が多かった高平とは、大津事件の折、省内に設置された対応調査委員会に小村侯は翻訳局長として、高平は初代政務課長として参加した以外、同じ屋根の下で働いたことはほとんどありませんでした。

小村侯が外務大臣の時代、即ち小村外交にかかわった大学南校同期生は高平一人でした。同期で留学も共にした鳩山和夫、コロンビア大卒は翻訳局長、次官から既に学界、政界へ転じていました。もう一人、福井出身の斉藤脩一郎という小村侯と共に留学生となり、ボストン大学で学び帰国後外務省に入り井上馨外務大臣の秘書官などを務め、将来を嘱望されていた人物がいましたが農商務省へ移った後、収賄事件の容疑を受け官界を去っています。斉藤が留学時代に「忠臣蔵・赤穂浪士」を翻訳した *The Loyal Ronin* が新渡戸稲造博士の *BUSIDO The SOUL of JAPAN* 「武士道」と共に日露戦争時、アメリカ大統領セオドア・ルーズベルト（T.R）の日本理解に大きな影響を与えたと、前記日露講和条約締結百周年記念の時訪れた、ポーツマス市の歴史博物館に展

示されていました。斉藤はこのように有能な人物でしたが官界から消え、残念ながら小村外務大臣を支えた外務省内の同期生は高平一人となっていました。

小村寿太郎外務大臣の高平小五郎公使に対するおもいやり・友情

高平小五郎

在米特命全権公使となった高平小五郎は、発展しつつあるアメリカに日本を理解してもらう最善の方策の一つとして米大統領や国務長官からの要請に基づき、1904年セントルイスで開催される万国博覧会に日本が参加することだと考え、参加することと日本代表として皇族のお出ましを小村寿太郎外務大臣に意見具申します。小村大臣はこの進言を受け入れ、軍事費に響くとの猛反対を押し切って参加することを閣議決定します。そして、天皇の名代として伏見の宮が臨席されることとなります。これを受け、日本から米国に各種の日本文化紹介が行われ、その一つとして講道館から山下義韶四段（後十段）が派遣され、ワシントンでも柔道の妙技を披露し、大好評を博します。この評判を聴いて T. R 大統領は柔道に大変興味を持ち、ホワイトハウス内に畳を敷いて柔道場を開設し、山下四段を指導者・先生として迎え入れ、柔道を習います。この開設には公使館・高平は全面的協力をします。公使館付海軍武官の竹下勇中佐（後海軍大将、海軍の外交官と称される）は在京時代、講道館で山下から柔道を習いおりましたので、ワシントンでも山下から習いたいと、ホワイトハウス内の道場への出入りを高平経由申し込みます。大統領から大歓迎との了解を得、山下のもと T. R 大統領と共に柔道に励みます。大統領と竹下は山下の同じ門下生と言うことで急接近し、大統領からいつ何時でもホワイトハウスに会いに来ることを許されます。即ち、日本公使館・高平は正規の外交ルート・国務省を通さずに何時でも大統領と面談できる、ホットラインの構築に成功します。こんなことがあってから、当時の在米ロシア大使カッシーニは中立国アメリカの大統領はいつから日本の弁護士になったのだと、ぼやくほどです。

なお、カッシーニ大使は、高平公使が日露開戦直後、アメリカの隔月誌 *North American Review*（1904年3月号）「北米評論」に日本がロシアと闘う正当性について「Way Japan Resist Russia　日本は何故ロシアへ抵抗するか」と題した論文を発表したことに対する雑誌の中立的立場もあってか、同誌の次号・5月号に「Russia In The Far East 極東のロシア」と題する論文を掲載します。この中でカッシーニ大使は、旅順や大連を含む遼東半島の租借権と、シベリア鉄道に接続し、満州の一部を横切るチタとニコリスクを結ぶ東清鉄道と、その南部支線（ハルピン、大連間。後の南満州鉄道）敷設権は、日清戦争の賠償金 100hundred million dollars　1億ドル、（日本では3億円といわれている。）をロシアが清国・中国に立て替えた担保として獲得したものである。また、満州へのロシア軍の駐留は、義和団事件、北清事件の折、清国の正規軍が国境を越え、ロシアに侵略したことに対する賠償だと、記し、自国の南下政策を正当化します。さらに、日本が宣戦布告前に旅順を奇襲攻撃したのは国際法違反であり、非文明国の態度だと日本を非難します。この内容を事前に知った高平は、同誌次号まで待てず、別の雑誌　*The World's Work*（1904年4月号）「世界の動き」に「What Japan is Fighting For 何故日本は闘うか」と題する反論を寄稿します。その中で高平はロシアへは既に国交断絶を伝え、公使館を閉鎖し、公使をはじめ日本外交団は既にロシアを離れており、その後は何時開戦しても決して国際法違反にはならないと反論し、もし仮に最初に発砲した國が国際法違反だとするならば、ロシアこそ日本が旅順奇襲の前、2月8日、仁川湾外でロシアの艦船が日本の艦船に発砲してきた事実を記し、カッシーニ論文を駆逐します。この論文の最後は、雑誌掲載論文としては珍しく墨痕鮮やかな自筆サインで締められています。高平のロシアには負けないぞという不退転の決意の程が伝わってきます。ロシアからは一切反論無しです。これも小村大臣が、些細な軍事行動も含め、最大漏らさず、現場の高平へ情報を知らせていたからこそできたことと考えます。即ち、軍部、政務・外務省・在外公館が一体となって情報を共有し、戦争を闘っている結実と思います。

カッシーニ大使はその後、米大使を更迭され、スペイン大使に左遷されます。

中立国アメリカで展開されていた熾烈な外交戦争で小村、高平・日本外交は、東郷平八郎が率いる連合艦隊がロシアのバルチック艦隊を撃滅したように、完勝します。

さて、ご名代伏見の宮は、陸軍中将で日露戦争が始まると第二軍傘下の第一師団司令官として、満州へ出征します。そして、金州城、南山陥落という戦果を得ます。その後、第一師団は旅順攻略のため新たに編成された乃木希典を司令官とする第三軍に編成替えされます。この時、伏見の宮は大本営付きとなり、帰国・凱旋。休む間もなく、明治天皇のご名代として、アメリカへ向かいます。小村大臣から、ご名代伏見の宮が出発されたとの電報を受け取った高平は、宮のお迎えの最終準備の為、ニューヨークへ出張します。が、運悪く急性盲腸炎となり、宿泊していたマジェスティックホテルで3人の米医師によって緊急手術を受けます。手術は成功、2～3日の山場、ガスが出るまで無事過ぎれば2～3ヶ月で、もとの職場に戻れるという医師団の見立てでした。

この事態に、公使館の留守を預かる日置益一等書記官（後ドイツ大使）は、小村大臣に公使の病状を伝えると共に公使不在の間、

自分が臨時代理公使となって、公使館・職務を守りたいと公電を発します。当時外務省の公電の発受信を一手に所掌していたのが電信課長で、この時は幣原喜重郎（後の外務大臣、総理大臣）でした。幣原は亡くなる直前「回想の高平小五郎」と題した一文を岩手日報に寄稿します（1951.1.1）。この中で、電報を大臣室へ持っていった様子を次のように記しています。「大臣は即座に臨時代理公使の件をお許しになり、少し間を置いて、高平はカネがなくてさぞ困っているだろう。君なんとかしてやってくれよと、申され、さらに、高平はカネなど貯める趣味のない男だからあーと、独り言のようにおっしゃった」とのべています。

当時、小村大臣から高平の下には、莫大な外交機密費が渡っていたと想像されますが、大学南校以来の友人高平は公のカネを一銭でも私事に使うような男ではないことを小村大臣は見抜いていました。ご両人とも官途を退いたとき、高官が持つような豪華な私邸を持っていないほど蓄財をせず質素な私生活・一生であった、という事も共通しています。また、日置を臨時代理公使としたことは、高平の病気回復後の職場を確保し、高平よ！早く良くなって戻ってきてくれ、君の働く場所は確保してあるぞという、小村大臣からの温かいメッセージだと、私は幣原のこの回想文から学びました。

小村侯と高平の戦時外交と、講和会議開催にこぎ着け、全権として、骨身を削るような講和会議での概要は、外にも多くの人が論じていますので本稿では割愛します。

小村寿太郎侯の政治生命と高平小五郎の外交官生命を救った明治天皇のお言葉・勅語

T.R 米大統領の好意ある斡旋により講和会議が米北東部のポーツマス市で開催されることとなり、全権委員に小村寿太郎外務大臣と高平小五郎公使が信任されます。小村全権一行は、戦争の実態を知らされず連戦連勝の美事に酔い、日清戦争以上の賠償金がとれる事を夢み、期待する国民の歓呼の大合唱の中、現地に向かいます。しかし、講和条約で、賠償金がとれない事が国内に伝わると、一部学者や政治家に煽動された国民の中から、条約反対撤廃の一大騒動が起きます。日比谷焼き討ち事件として有名です。この鎮圧には非常事態宣言が発せられ、軍隊が出動してようやく鎮圧するほどの大騒動でした。

武士道を愛し、日本に好意的であるとして日本国内でもファンが多かった T.R に対しても、賠償金零が伝わると国内は一気に反 T.R 空気となります。

この前後の事を二つ事例、余り知られていないことからみてみたいと思います。

先ず、T.R に対する国民的好感を示す例です。

祖先が武士である盛岡の松本与五郎という古物商と下宿屋を生業としている人が、T.R が武道を愛し日本への理解が深いということに感動し、公的機関・外務省、県庁、市役所を通さずに直接、在日米公使館に T.R に対する敬意と感謝をそえ、日本刀一振りを届け、T.R 大統領に贈呈しています。この史実は、ごく最近まで子孫を含め全く知られていませんでしたが、大統領から、松本なる人は、自分が受け取るに相応しい人物かどうか教えてくれとの依頼を受けた高平公使から小村外務大臣への調査依頼した公電（明治38年第10号）を私が見つけ、近年ようやく判明しました。T.R に対する人気は、東京を遠く離れた、岩手県・盛岡の庶民・市井の間でもそうとう高かったということをこの事実は示していると思います。

外国人で T.R の人気の変動を実感・経験したことを伝えている書が有ります。

THEODORE RET セオドア王 T.R のこと（E.Morris.The Modern Library.N.Y2002 未邦訳.）です。これをもとに少し見てみます。

1905年の夏遅く、後に大統領になるとタフト陸軍長官と T.R の娘で趣味は父のことと答えるアリスが来日します。講和会議開催が決まった直後です。日本では、明治天皇が歓迎昼食会を、桂太郎総理は盛大な晩餐会を開くなど準国賓として迎えます。東京市民も T.R の大きな写真を掲げるなど大歓迎です。政治的には、「桂・タフト覚書」ができます。ところで香港などを視察して戻ってくると、丁度講和条約で賠償金が取れないことが判明した頃で、前の歓迎ムードはどこかに消え、街では T.R の写真が取り外され、身の危険さえ感じるほど険悪な空気になっています。両全権の不人気の一部・怒りが T.R に向けられているようだと書いてあります。二人は逃げるようにして、フィリピン経由帰国の途に着きます。

賠償金が取れなかったことに対する両全権に対する不満は、明治天皇の側近でかつ、政界の超大物伊藤博文さえ、小村、高平の外交能力を疑っているほどです。まさに両全権にとって最大の危機です。

講和会議後、体調を崩した小村全権は帰国を延期してニューヨークで療養します。この間、高平はワシントンへ戻らず現地に滞在して、毎日小村全権を見舞います。そして、ひそかに、外務大臣兼任の桂首相へ、批准の関係で急ぎ全権が帰国（明治天皇への復命のため）しなければならなければ、自分が帰国してもよいと電報を打ちます。もちろん講和条約の評判の悪いことを知ってのことです。その昔、武蔵坊弁慶が主君義経を守るため高館の前に仁王立ちとなって、敵の矢雨を全身で受け、往生したとの、郷里・平泉の故事を地で行く心境だったと思います。高平帰国の動きを感知したニューヨークタイムズは1905年9月21日号で「日本公使が帰国か、2年ぶりに家族に再会」とのタイトルで報じますが、高平は公務での帰国を一切漏らさず、家族との再会を装って記者を煙に巻いています。また、小村全権が回復し帰国を医師が許可しますと、その夕方、高平は全快祝いの会食を共にしたと同紙24日号は報じています。そして、「小村外相の帰国を高平公使見送り」（同紙28日号）と続き、高平が小村外相のニューヨーク出発を見送ったことを報じています。小村侯一行はバンクーバーから客船エンプレス オブ インディア号で太平洋を渡り、横浜に上陸します。

小村侯一行の到着・帰国直後に取った皇室・明治天皇の動きを「明治天皇記」（宮内省臨時帝編修局。著作権者宮内庁 吉川弘文館 1967～1977。全13巻）を見ながら考えます。

明治天皇は、小村全権を横浜で迎える使者として、侍従武官井上良智陸軍少将を遣わし、皇室御用邸を利用させます。国賓、皇室以外、高官、貴人でも横浜関税の貴賓室を使うのが一般的でこれは全くの厚遇です。更に小村侯が新橋駅に着きますと、宮内省差し回しの馬車で井上武官と共に参内・皇居へ、この後に続いたのが迎えに来た桂太郎首相の馬車です。明治天皇は直ちに御座所へ招き入れ、面会し、労苦をねぎらい、功績を讃え、勅語・お言葉・お考えをしめしたお言葉、を与えます。その中身の概要は「朕・私（明治天皇のこと）は米大統領の忠告を聞き入れ、郷等（小村侯と高平のこと）に全権を与え、米国に於いて、ロシアの全権と会同し、折衝させた。両全権は慎重にことを進め、良く大局をみて到達した結論・講和条約は、朕の意に添い、かつ我が国の地位を確保し、交戦の目的を充分貫徹したもので、朕は郷等の労苦に思いいたし、その労をねぎらい、よくやったと称賛する」といった主旨です。そして小村全権に3万円、高平全権に1万円を下賜します。

このお言葉の意味するところは、この条約は自分の意を満たしたものであり、本条約並びに両全権を非難・誹謗することは自分に対する反抗であり、叛旗である。と読めます。

天皇のお言葉・お考えは、今でも生前退位された上皇様の先のお言葉をみるまでもなく、国民を動かす相当な力を持っています。ましてや当時の天皇、明治天皇は絶対的支配力を持っていました。

そのことを示す端的な事実があります。

小村侯がまだ米国から帰国前、アメリカの鉄道王ハリマンが来日し、ポーツマス条約でようやく獲得した、南満州鉄道（満鉄）をハリマンが買収するという合意が元老の了承を得て、外務大臣兼任の桂首相との間に整い、調印を残すのみとなります。所謂、満鉄買収予備協定書、俗に「桂・ハリマン協定」です。帰国し、このことを知った小村侯は、まだ満州経営の基本計画も定まらない前の売却に絶対反対と元老や総理を説得し、白紙撤回させます。これを成し遂げ得たのは、明治天皇の信頼が不変であることを天下に示した、あのお言葉・勅語のお力で、小村外交が不人気の底から再生したことを端的に示していると考えます。

桂内閣退陣後、西園寺公望内閣が誕生します。小村侯は在英大使へ、高平はイタリア初代大使となります。西園寺内閣は、日露戦争の後は日米戦争かと米新聞で報じられるほど、日に日に悪化する日米諸関係を、初代米大使青木周蔵のもとでは回復不可能と最悪の事態・外交断絶を避けるため、任期半ばで青木を更迭し、後任にイタリアの高平を在米大使とします。

高平は本国政府と打ち合わせのためにも一度も帰国せず、イギリス大使である小村侯をロンドンに訪ね、長時間打ち合わせを済ませ、そこから大西洋を渡ってアメリカに赴任します。

間もなく、第二次桂内閣が誕生し、小村侯は再度外務大臣に就任します。

高平米大使は小村外務大臣の指揮監督のもと、T.R 大統領の後半の国務長官ルートとの間に、日米友好を確認し、中国の主権と領土の保全、門戸開放機会均等を約し、ポーツマス講和条約で日本が獲得した満州での権益をアメリカが公文書で確認した太平洋方面に関する日米交換公文、俗に「高平・ルート協定」を締結します。この協定については広辞苑が高平の功績の一つとして紹介しています。この協定は、1922年ワシントンで開催されたワシントン会議で合意された中国に関する「九カ国条約」の母体で、一体なものです。満州事変の時、国際連盟から派遣されてきたリットン調査団は日本の軍事行動がこの「九カ国条約」に違反していると連盟に報告、連盟がこれを認め、総会で日本へ勧告するとこに反発して日本は連盟を脱会、国際的孤立の道へ走り、ついには太平洋戦争に突入、悲惨な結末を招いたことは歴史の示す通りです。

更に、高平は今でも毎春、ワシントンのポトマック湖畔に咲き誇り、盛大に祝われる日本デーの中心の桜を日本から大量移植贈呈することの合意を、タフト政権のノックス国務長から得ます。これが今日に続く、日米の友好親善を示している桜祭りの起源です。

小村侯は、再任した外務大臣として、明治外交の悲願でもあった幕末締結された不平等条約の撤廃を完成させます。即ち、領事裁判権の廃止については陸奥宗光外相が、残っていた関税主権の確立を小村侯が達成し、日本外交の悲劇を解消します。

また、ロシアの復讐に備えるため、韓国を日本と一体となることを定めた日韓併合条約を締結します。この条約については反対、異議を申し立てる国は一国もありませんでした。ただ、タフト政権のアメリカが懸念されましたが、小村大臣が前アメリカ大使で待命大使となった高平をロンドンで開催する日英博覧会に臨席する伏見の宮の欧州視察旅行の首席随員と偽装させ、前大統領となった T.R への説得を密命します。高平はロンドンで T.R 説得を成功させます。

高平と T.R の親交の深さを示す、あまり知られていないエピソードがあります。1909年1月20日、タフトの新大統領就任式が議事堂で挙行中、前大統領となった T.R は自宅のあるニューヨークのオイスターベイへ戻るため、ワシントンのユニオン駅で特別列車を待っていると、就任式を途中で抜け出してきた高平大使が惜別の情を示すため、突然駅に現れます。思いがけない、想定されていない高平の姿に T.R は涙をださんばかりに感激します。高平大使等に見送られ、一抹の寂しさを堪えて、T.R がワシントンを公式に離れたのが午後3時26分、前記 *THEODORE REX* は記しています（553p）。このような些細なことも小村大臣は見落とさずに、高平と T.R の親密さを確信して、高平を T.R 説得の密使にしたものと考えます。高平は見事にその期待に応え、ロンドンで密談、「高平・ルート協定」の再確認と韓国併合の内諾を得ます。この内容を高平はロンドンから外交機密暗号電報で小村大臣へ報告しています。小村大臣もほっとしたことと思います。

このように、小村侯は第二期外務大臣として、又、高平は大使、待命大使として外交史に残る功績を残します。これができたのも、明治天皇の不変の小村侯と高平に対する信任です。その分水嶺が先の勅語に象徴されていると私は考え、ご紹介しました。

明治天皇の帝国憲法では天皇が主権者です。また、日本国憲法では国民が主権者です。

一部の人の声高の意見に左右されない主権者がいかに国の良き指導者を育てるか、その手本が、明治天皇が小村侯や高平に与えた勅語で、それを雄弁に物語と確信します。

小村侯と高平を今風に言えば、一部の人・政党に仕える人ではなく、主権たる国民に仕える大政治家、公務員であったと確信します。換言すれば、小村侯と高平は、明治天皇・主権者・国民に「誠」を尽くした偉人であったと改めて尊敬の念を深める日々です。

一日も早くコロナが収束し、皆さまにお目にかかれる日を楽しみにしております。

小村寿太郎侯生家宿泊施設へ

日南市・飫肥地区に残る歴史的建物5施設が宿泊施設に生まれ変わります。日南市と民間企業による歴史的建造物群の利活用事業で2年以内に営業を始める予定です。

事業を手掛けるのは、日本航空（JAL）など3社が参加する共同企業体（JV）と JR 九州。1921 年に移築された小村寿太郎侯生家と、貴族院議員旧高橋源次郎家、豪商旧山本猪平の 3 棟が宿泊施設へ。

1870 年建築の商家資料館をこの 3 棟のフロント業務とカフェやギャラリーになり、江戸後期建築の武家屋敷旧伊藤伝左衛門家を JR 九州が約 4,100 万円をかけて高級旅館になる予定とのことです。

これまで小村侯生家は、施設内の見学ができなかったので楽しみですね。

小村寿太郎侯東京奉賛会

事務局長　金丸 博司　〒130-0026 東京都墨田区緑 3-9-3　電話：03-3846-9030　FAX:03-6659-3084
E-mail：kanemaru.hiroshi@orchid.plala.or.jp　振込先：ゆうちょ銀行　店番 008 普通預金口座 1191854 名義　小村寿太郎侯東京奉賛会